

# 関係団体等ヒアリングのまとめ

	項目	意見
1	障がい者への理解と地域福祉の推進	<p>後見制度について勉強しているが、難しくてよくわからない。</p> <p>障害に対する理解が広がってほしい。特に子どもたちについては、普通学校と特別支援学校との交流などを通じて、理解が進むとよい。</p> <p>いつまでも親が元気ではられない。親亡き後が心配。</p> <p>親亡き後のためにも権利擁護支援センターを設立いただきたい。</p> <p>障がいに対する理解を深めるため、市民向けのイベントを開催してはどうか。</p> <p>地域の方の障害者理解が進むように、市民向け研修会があるとよい。</p> <p>農業など地域の方と一緒に就労支援に取り組んでいる。陶芸教室なども開催していきたい。</p> <p>強度行動障害に対する理解を深めることが大切。</p> <p>資源回収等を通じて、地域とのつながりを意識している。</p>
2	教育・療育・子育て支援	<p>事業所が看護師の配置や支援員の研修受講により医療的ケアの体制を整えても、利用者の体調の変化等により一定の利用が見込めず、事業としてやっていけない。</p> <p>子どもたちが障害に対する理解を深めるためにも、現在夏休みに実施している中高生の体験学習の期間を延ばすなど充実するとよい。</p> <p>放課後等デイサービスや就労継続支援事業所の質の確保。</p> <p>不登校の子どもに対しては、学校との連携が必要である。関係機関の相関図を作成すると支援体制がわかりやすくなるのではないか。</p>
3	雇用・就労	<p>聴覚障害者が定年後に働く場がない。</p> <p>一般就労や施設外就労など、企業と連携を図っていきたい。</p>

# 関係団体等ヒアリングのまとめ

	項目	意見
4	保健・医療	難病患者も受け入れているが、医療的ケアに対応した療養介護施設が増えるとよい。
		小牧市民病院の精神科が縮小されていることが心配。
		医療について適正な受診を促したい。また、通院できない人への支援や事業所が独自に実施している健康診断に補助があるとよい。
		在宅医療も担える医療機関が市内に増えるとよい。
		保健所に手続きに行くときは調子が良いときのため、実態が把握されていない。保健師の数を増やして、家庭訪問を積極的に実施してほしい。
		難病患者の地域生活を支えるためにも、医療、保健、介護等関係者が連携してほしい。
		子育ての力がない親への支援が必要。
		コロニーと地域の病院が連携して、地域の病院でも受診できるようにしてほしい。
5(1)	生活支援 (住まいの場)	生涯GHで過ごせるか不安。
		週末にGHから帰宅する際、今は親が送迎できるが、将来のことを考えると不安。
		入所施設、グループホームが少ない。
5(2)	生活支援 (日中活動の場)	入所者が通所できる日中活動の場が近くにあると、活動の選択肢が広がる。
		土日でも利用できる余暇活動の場があるとよい。
5(3)	生活支援 (その他の福祉サービス)	家族の事情により緊急ショートを利用したくても、預けられる短期入所施設がない。
		24時間対応のヘルパー事業所が知りたい。
		入所者でも、後見人やヘルパーの支援を受けることにより、地域移行できる方がいる。
		24時間体制の事業所があるとよい。
		精神障害者に対応した短期入所施設がない。

# 関係団体等ヒアリングのまとめ

	項目	意見
6	社会参加、スポーツ・文化活動	障害者が気楽にしゃべれる場所があるとよい。
		市のイベントにおいて、補聴器をつけていると周りが騒がしくて、放送が聞き取れないため、放送している内容の印刷物を配布してほしい。
		手話で交流できるサロンがあるとよい。
		支援者や地域の人などが、ざっくばらんに話し合える場があるとよい。
		一般就労の方の社会的孤立を防ぐため、気軽に参加できるサロンなどがあるとよい。
7	生活環境	駅のホームに、危険側の向きを示す点字ブロックを設置してほしい。小牧駅西口に点字ブロックがないところがある。
		側溝の蓋が滑りやすかったり、網目状だと車椅子の車輪が挟まる。
		歩道に傾斜があり、車椅子での歩行が困難。
		市民会館のトイレの間口が狭く、車椅子では入れない。
		多目的トイレがある施設がわかる市内のマップがほしい。
		すべての避難所に車椅子用トイレを配置してほしい。
		避難行動要支援者台帳がどのように活用されているのかわからない。
		市の防災訓練に参加したい。
		災害時において、緊急時の案内が放送のみだと気づかない。
		障害者を対象とした避難訓練を実施してほしい。
		タクシー券の助成内容をさらに充実してほしい。
		家族の高齢化が進み、自家用車での移動が困難になったことで、面会の回数が減っている。
		施設が丘陵地にあるため、災害時が心配。
通所、通学のための移動支援を認めてほしい。		

# 関係団体等ヒアリングのまとめ

	項目	意見
7	生活環境	<p>巡回バス等の公共交通機関を充実してほしい。</p> <p>重度障がいにより公共交通機関では通院できない方について、車を利用した通院介助を認めてほしい。</p> <p>福祉避難所の受入態勢や、物資の提供体制の整備が必要。</p> <p>移動支援について、通所訓練など、期間を区切った支給決定を認めてほしい。</p> <p>災害時、避難所において電源を確保するなどの配慮をしてほしい。</p>
8	相談・情報提供	<p>夜間や休日に相談員と連絡が取れない。</p> <p>聴覚障がいの手帳所持者でも意思疎通支援派遣事業を知らない人が多いので、周知してほしい。</p> <p>市広報に保健所のFAX番号の掲載がない。</p> <p>計画相談によって、本人の選択肢が増えた。</p> <p>アンケート結果で、相談先がわからない方が多くいたことが気になる。</p> <p>自立支援協議会がもっと活性化するとよい。</p> <p>相談員の質の向上。</p> <p>外国人の相談で、言葉が通じなくて困る。通訳の派遣があるとよい。</p> <p>高齢者の難病患者は包括センターに相談するが、若年の難病患者は、相談先がわからない。また、難病患者は障がい者ではないという認識で、障害者相談支援事業所へ相談しない方がいる。</p> <p>相談員が不足している。</p>

# 関係団体等ヒアリングのまとめ

	項目	意見
10	市の取組み	<p>手話奉仕員養成講座を水曜日の夜に開催しているので、市職員にも積極的に受講してほしい。</p> <p>小牧市民病院に手話通訳者を設置してほしい。</p> <p>人材不足を解消するため、福祉の仕事を知ってもらえるイベントや、事業所見学、就職フェア等を実施してはどうか。</p> <p>就職フェアを開催するなどして、人材確保の取組みをしたい。</p> <p>サービス支給に際して、適正な時間数の目安があるとよい。</p> <p>患者にとっては、保健所も市役所も区別がない。もっと連携してほしい。</p> <p>進行性の難病の場合、早急な支援が必要にもかかわらず、市役所の手続きに時間がかかってしまい、支援が後れることがあるため、市役所には柔軟な対応をお願いしたい。</p>
11	その他	<p>高齢の聾者が引きこもりにならないように、デイサービスに手話ができる職員がいるとよい。</p> <p>生活圏内に利用できる事業所や病院があるとよい。</p> <p>緊急時の受け入れについては、サービスの提供ではなく措置であれば検討できるかもしれない。</p> <p>法人としては、今後の事業の拡大に尽力していく。</p> <p>市内企業のノベルティグッズに障がい者が描いた絵を活用できないか。</p> <p>サービスを提供するだけでなく、本人活動の支援も促したい。</p> <p>関係機関と連携してうまくいった事例を紹介すると、イメージしやすい。</p>